

3.8 事業成果の普及

当事業で開発した教育プログラムの普及を目的とし、Web サイト等での情報公開、大学関係者を招集して情報公開・意見交換を行った。

3.8.1 当事業の情報公開 Web サイト

当事業の情報公開を目的とした Web サイトを構築した。今後、継続的に当事業の成果(教育体系、スキル体系、シラバス、標準履修時間割、学生アンケート等のコンテンツ等)の公開、各種委員会等の活動報告、起業塾等の開催案内を随時掲載した。今後はこれらの普及活動のほか、重点科目等の授業動画公開(本学の動画配信サイト等)、Facebook 等のソーシャルメディアの活用を行う。

<http://bds.aiit.ac.jp/>



3.8.2 産業技術大学院大学 Web サイト

本学の公式 Web サイトに当事業に関する情報を随時掲載したり、当事業の情報公開 Web サイトとの相互リンクを張ったりする等し、相互連携により、事業成果の普及を図る。

<http://aiit.ac.jp/news/view/433>



3.8.3 大学院説明会

本学の大学院説明会で、当事業成果の教育プログラム(「事業アーキテクト」コース)に関する案内を行った。

3.8.4 ワークショップ

当事業成果の普及活動、情報公開、成果・進捗報告のため、関係教育機関・企業等対象の「高度人材養成のための社会人教育ワークショップ」を開催した(§ 2.5 参照)。

3.8.5 学修コミュニティイベント（起業塾）

当事業成果の普及活動及び社会人学び直し啓発のため、一般対象の起業塾を開催した（§3.7.1 参照）。

3.8.6 Web 記事

当事業成果の普及活動及び社会人学び直し啓発のため、当事業に関する Web 記事を掲載した（§3.7.2 参照）。

3.9 事業の評価

3.9.1 外部評価委員会

- 日時:2016/03/02(水) 15:00-18:00、2016/03/07(月) 13:00-17:00
- 場所:産業技術大学院大学 308 室
- 出席者:
(産業技術大学院大学委員)
川田 誠一 氏(産業技術大学院大学 産業技術研究科長 創造技術専攻 教授)
小山 裕司 氏(産業技術大学院大学 附属図書館長 情報アーキテクチャ専攻 教授)
亀井 省吾 氏(産業技術大学院大学 特任准教授)
(外部評価委員長)
板倉 宏昭 氏(香川大学大学院地域マネジメント研究科教授)
(外部評価委員)
川田 尚吾 氏(株式会社ディー・エヌ・エー 共同創業者)
大谷 哲也 氏(横河電機株式会社高度ソリューション事業部 RTO 部長)
大澤 隆男 氏(株式会社日立製作所 IT 統括本部 統括本部長)
有賀 英雄 氏(株式会社東芝 研究開発統括部マーケティング戦略室 参事)

* 2016/03/02(水) 15:00-18:00 開催の外部評価委員会は、外部評価委員として大澤隆男氏、産業技術大学院大学委員として川田誠一氏、小山裕司氏、亀井省吾氏出席の下、実施された。

3.9.2 外部評価結果

外部評価委員会の評価は、先ず各委員が以下表 11 の通り、7 つの基準についての審査を実施した評価報告書を作成した後、委員長が取りまとめを行い、最終評価委員報告書の作成を実施した。尚、評価は、日本技術者教育認定機構における認証評価基準に照らし、S(優良)、A(適合)、C(懸念)、W(弱点)、D(欠陥)、－(該当なし)にて表示した。以下、表 11 にて最終評価委員報告書を示す。

表 11 外部評価最終委員報告書

高度人材育成のための社会人学び直し大学院プログラム 外部評価
評価委員報告書

教育機関名称 産業技術大学院大学

作成日 2016年 3月7日

作成者氏名 板倉宏昭

出所など：日本技術者教育認定機構「専門職大学院認定評価報告書」を編集、抜粋して作成

全般的な長所・問題点・コメント

- ・情報やデザインという資源をいかした実践的な高度専門職業人に取り組みられている。技術と戦略を遂行する人材育成に計画的に取り組まれている。プログラムが体系化され、事業アーキテクトという人材像も明確で、外部評価によるPDCAの仕組みが工夫されている。
- ・ITスペシャリストの人的ネットワークを活かした事業アーキテクト育成はユニークと思うので、更に特長として伸ばしていただきたい。
- ・PBLの進め方は、外部の有識者の意見も入れると良いと思う。
- ・枠組みは、きちんと構築され、十分機能している点と評価できる。
- ・全般的にはよく検討計画され、PDCAサイクルも整備されている。一方で、本事業コースのAIITの特色をもっとPRすべきと感じた。AIITの強みは、IT&デザイン（創造）とすれば、それを前面に出したシラバスが求められる。また、理論と実践（PBL等）のバランスは3:7程度の実践にウエイトを置くべきだろう。本校のブランド戦略も検討されると良い。講義自体の客観評価（学生の満足度）をしていただきたい。

基準1：事業の目的・意義および学習・教育目標の設定と公開

| 番号 | 評価項目 | 評価 | 根拠・指摘事項 |
|----|--|----|---|
| 1 | 事業の目的・意義は、次世代成長産業分野において、従来の仕組みを改革し、事業を再構築できる高度人材に求められる深い学識及び卓越した能力を培う社会人学び直しの為の専門職大学院プログラムとして、社会の要請を踏まえて明確に定められ、学生・教員だけでなく社会にも公開されていること。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術と戦略を活用できる人材として明確に定められている。学内外への発信が一層望まれる。 ・ 観光・物販・医療等の第三次産業等を具体的な成長分野とイメージしており明確かつ大枠正しいと思われる。 ・ 次世代の事業家を育成する学び舎として、更なるPR（注目度の高いイベントの実施など）が望まれる。 ・ 本事業の意義・狙い・詳細情報の公開は学内外とも積極的に進めているが、学外ステイタスを上げる工夫をすべきだろう。 ・ マネジメントとITを活用した事業開発と改革を遂行する人材を育成している。 |
| 2 | 事業の目的・意義に沿って高度な専門職業人を育成するために、学生が課程修了時に保有しているべき知識・能力を、社会の要請を反映させつつ、学習・教育目標として明確に設定しており、学生および教員に周知していること。 | S | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習成長の記録のリーダーチャートなど工夫されている。 ・ 事業アーキテクトというコンセプトの人材はまさに現在求められている人材である。 ・ 本学の特色を活かした課程となっており、学生・教員も理解しているものと思われる。 ・ 学生、特に社会人学生にとっての魅力や価値訴求を更に強化し、学生応募数を増やしていただきたい。 |

出所など：日本技術者教育認定機構「専門職大学院認証評価報告書」を編集、抜粋して作成